富山経済同友会
文化スポーツ委員会

～2021年度・2022年度～

活 動 報 告

2023年３月

富 山 経 済 同 友 会

文化スポーツ委員会

〇活動一覧

年度	年月日	活動内容
2021年度	令和3年 7月15日（木）	**会員定例会**「弱小チームからワールドカップで勝つまで」 ・場所：オークスカナルパークホテル富山（オンライン開催） ・講師：元ラグビー日本代表 大野 均氏
	7月30日（金）	**第1回委員会**「癒しの立山曼荼羅の世界」 ・場所：立山国際ホテル、立山博物館 ・講師：立山ガイド/山賊倶楽部とやま代表　佐伯　友彦　氏
	10月19日（火）	**第2回委員会**～モノづくりのまち高岡・勝興寺で工芸の魅力に触れる～ ・場所：金屋町散策、勝興寺 ・シマタニ昇龍工房、大寺八郎商店、鋳物資料館など工房見学、 ・勝興寺の平成大修理について、北陸工芸の祭典「GO FOR KOGEI特別展」見学
	令和4年 1月27日（木）	**第3回委員会**～パラスポーツ交流から共生社会を考える、ボッチャ体験～ ・教育問題委員会との共催 ・場所：ありそドーム研修室、産業展示ホール ・講師：パラリンピックメダリスト　藤井　友里子　選手
	2月21日（木）	**第4回委員会**（拡大委員会）「2025年大阪・関西万博に向けて」 ・オンライン開催 ・講師：内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長　高科　淳　氏
2022年度	5月17日（火）	**第5回委員会**～富山の伝統文化と歴史や魅力を学び、和の文化を体験する～ ・場所：松井機業、城端曳山会館、庄川温泉となみ野庄川荘 ・講師：十六代小原　治五右衛門　氏、三遊亭良楽師匠
	6月17日（金）	**第6回委員会～**弥陀ヶ原・立山カルデラ視察～ ・場所：室堂、称名滝 ・講師：立山ガイド/山賊倶楽部とやま代表　佐伯　友彦　氏
	7月27日（水）	・**会員定例会**「スポーツを通じた地域活性化」 ・場所：ホテルグランテラス富山 ・講師：㈱アルビレックス新潟　取締役会長　池田　弘　氏
	9月25・26日 （日・月）	**第7回委員会**～黒部ダム視察～「黒部電源開発の歴史について」 ・場所：フォッサマグナミュージアム、 ANAホリディ・インリゾート信濃大町くろよん、黒部ダム、弥陀ヶ原 ・講師：㈱かんでんエンジニアリング　米沢　出穂　氏
	11月28日（月）	**第8回委員会**～相撲談議～ ・場所：オークスカナルパークホテル富山 ・講師：朝之山富山後援会理事長　青木　仁　氏 富山商業高校相撲部監督　上田　龍弘　氏
	令和5年 1月22・23日 （日・月）	**第9回委員会～**相撲観戦ツァー～ ・場所：両国国技館、高砂部屋祝賀会、銀座歌舞伎座 ・富山出身朝乃山関応援、歌舞伎鑑賞（演目：壽　初春大歌舞伎）

	3月28日（火）	**第10回委員会**～パラスポーツ交流から共生社会を考える、車いすバスケット体験～ ・「絶望から世界の舞台へ」 ・教育問題委員会との共催 ・場所：富山大学教育学部講義室、第一体育館 ・講師：パラリンピックメダリスト　宮島　徹也　選手

〇同友会の日

年度	年月日	活動内容
2021年度	8月29日（日）	・富山GRNサンダーバーズ応援　（県営富山野球場） ・対　福井ワイルドプラターズ ・コロナ感染拡大のため観戦中止
	10月30日（土）	・カターレ富山応援（富山県総合運動公園陸上競技場） ・対　Y.S.C.C.横浜
	3月16日（水）	・富山グラウジーズ応援（富山市総合体育館） ・対　京都ハンナリーズ
2022年度	8月28日（日）	・富山GRNサンダーバーズ応援　（県営富山野球場） ・対　福井ネクサスエレファンツ
	10月30日（日）	・カターレ富山応援（富山県総合運動公園陸上競技場） ・対　今治FC
	1月29日（日）	・富山グラウジーズ応援（富山市総合体育館） ・対　秋田ノーザンハピネッツ

〇アスリート支援小委員会

年度	年月日	活動内容
2021年度	1月25日（火）	**【勉強会】** ・場所：富山経済同友会事務局 ・講師：㈱ATSUMI 代表取締役　飯田　健巳　氏
2022年度	8月31日（水）	**第1回小委員会**　～小委員会設立の経緯と意義～ ・場所：インテックビル2階会議室 ・講師：日本電気㈱北陸支社　吉村　尚人　氏 「元ラグビートップリーグ選手のセカンドキャリア体験」
	11月29日（火）	**第2回小委員会**　～富山市市民生活部スポーツ健康課との意見交換～ ・場所：富山経済同友会事務局

〇担当委員

委員長：　島田好美

副委員長：　浅野雅史、尾城啓郎、神崎直志、高瀬幸忠、武内孝憲、長谷佳子、柳川三千代

アドバイザー：大橋聡司、高林幸裕、羽根由、石坂兼人、津島春秋、山野昌道

目次

1　はじめに 1

2　委員会 2

○第１回委員会 2

○第２回委員会 3

○第３回委員会 4

○第４回委員会（拡大委員会） 5

○第５回委員会 5

○第６回委員会 6

○第７回委員会 7

○第８回委員会 8

○第９回委員会 9

○第 10 回委員会（教育問題委員会と合同開催） 11

3　同友会の日 12

○カターレ富山：令和３年 10 月 30 日（土） 12

○富山グラウジーズ：令和４年３月 16 日（水） 12

○富山 GRN サンダーバーズ：令和４年８月 28 日（日） 13

○カターレ富山：令和４年 10 月 30 日（日） 14

○富山グラウジーズ：令和５年１月 29 日（日） 14

4　会員定例会 15

○令和３年７月会員定例会 15

○令和４年７月会員定例会 16

5　アスリート支援小委員会 17

○第１回小委員会 17

○第２回小委員会 17

文化スポーツ委員会：写真集（2021 年 7 月～2023 年 3 月 28 日） 19

文化スポーツ委員会　委員名簿（2023 年 3 月現在） 42

１　はじめに

2021年4月より、7名の副委員長、各年度3名ずつのアドバイザー、そして事務局の方と共に2年間の活動を始めました。富山経済同友会での当委員会の立ち位置がどのようにあるのかは歴代の委員長に委ねられていると聞き、可能な限り遡って過去の委員会活動を見てみましたが、実に様々なテーマで取り組んで来られたと分かりました。でもそこに流れている共通の思いは、富山に限らず多岐にわたる文化の歴史を紐解き会員と共に学んでいく姿勢でした。

活動計画を立てるに当たり、文化とスポーツ、どちらに重きを置くかを考えてみると、延期となったオリンピック・パラリンピック、富山出身のスポーツ選手の活躍、地元富山の歴史や文化など取り上げたいテーマは数多くありました。
果たして100名以上の会員がおられる事を思うと、両方ともテーマとして組み込んでいこうと決めましたが、それが良かったかどうかは参加頂いた皆様のご判断に委ねるとして、今は委員長として無事に役を終えることが出来感慨深く思っています。

また、富山在住プロスポーツ選手のセカンド・デュアルキャリア支援について、SDGsに基づき「だれ一人取り残さない」サポートの一端に当委員会も関わっていくことが出来、そして継続活動として今後に繋がった事は大変うれしく思っています。

折しも2020年より世界中にまん延したCOVIT-19のため行動が大きく制限されましたが、そのような中でも視察や講演会などの準備と実行にご尽力頂いた7人の副委員長と事務局の方、折に触れ温かいサポートを授けて頂いた6人のアドバイザーの方、そしてお忙しいにも拘らず諸委員会に参加頂いた多くの会員の皆様には心より感謝いたします。
これからもこの文化スポーツ委員会が富山経済同友会にとって会員皆様の心に新しい刺激や気付き、学び、そして会員相互の交流を深めていく場となりますよう祈念いたします。

2023年3月31日
文化スポーツ委員会
委員長　島田好美

２　委員会

＜2021 年度＞

〇第１回委員会

令和３年７月 30 日（金）　参加者 31 名（於：立山国際ホテル及び立山博物館）

はじめに、島田委員長が「これから２年間、皆さんとともに富山に関わる文化やスポーツについての知見を深めていきたい」と挨拶した後、立山ガイドの佐伯知彦氏を講師に招き、「癒しの立山曼荼羅の世界」と題して講演会を開催した。

佐伯講師

佐伯氏は、かつての立山信仰登拝の案内人「仲語」のいでたちで登場。はじめに、立山信仰の源である立山の自然を紹介した後、立山信仰の歴史を解説。立山は「日本三霊峰」の一つであり、古来より信仰の山として崇められてきた。江戸時代には独自の信仰の世界を開き、立山登拝の拠点である「宿坊」が「立山曼荼羅」の絵解きを通して布教活動を行った。その際、御札や立山の地図とともに霊薬も頒布していたが、お代はその場ではもらわない「先用後利」で、富山の薬売りに通じるやり方によって、立山信仰を全国に広めていったことを説明した。

立山博物館　展示館にて

次に、立山曼荼羅には、佐伯有頼による「立山開山縁起」、地獄谷を中心に剱岳やみくりが池などを地獄に見立てた「立山地獄」、三山を極楽浄土に見立てた「立山浄土」、女人救済の秘儀「布橋大灌頂会」、六根清浄を唱える「立山禅定」の５つの物語が描かれていると説明。立山信仰の背景には、山中に地獄と浄土が併存する「山中他界観」があり、立山を登拝し死後の世界を巡ることで、今までの罪や穢れは浄化され、生まれ変わることができるとした。

ウバ堂基壇にて

最後に、立山曼荼羅は昔、自分の心が映し出される「絵鏡」と言われていたことを紹介し、「自分の心を八正道に当てはめて、正しく導いていくのが立山信仰である」と述べ講演を締めくくった。

講演会に引き続き、島田委員長から今年度の活動方針及び活動計画を説明。

その後、立山博物館に移動し、まず、学芸員の案内で常設展と特別企画展を鑑賞。立山信仰の舞台となった立山の自然や歴史、曼荼羅の精神世界、立山信仰用具、立山登拝者や宿坊の様子など、立山信仰の特徴と魅力について解説いただいた。

続いて、講師の佐伯氏に解説いただきながら、雄山神社芦峅中宮祈願殿、教算坊、閻魔堂、布橋、まんだら遊苑などを巡った。まんだら遊苑では、地界～陽の道～天界～闇の道

へと、立山曼荼羅の世界を「見・聴・香・触・空」の五感で感じながら、立山の地獄から極楽浄土、現世への再生まで、立山信仰の壮大な世界を体験した。

まんだら遊苑　須弥山にて

雄山神社芦峅中宮にて

布橋にて

〇第２回委員会

令和３年 10 月 19 日（火）　参加者 22 名（於：高岡市金屋町、勝興寺他）

はじめに、２グループに分かれて、伝統工芸の工房見学、高岡市金屋町の散策を行った。

シマタニ昇龍工房では、４代目の島谷好徳さんに、「鏧子（けいす）」の伝統的な製造技術や新ブランド立ち上げについてお話を伺った。「金鎚で叩く」ことにより、板を絞り、丸みを整え、音を調律する。手打ち鍛造による伝統技法は、一子相伝により守り続けられてきた。新ブランド「すずがみ」は、その匠の技から生まれた製品で、伝統の技術を守りながら新しいものに挑戦することが、若手職人の育成にもつながっていると説明。参加者一同、鏧子の心癒されるおだやかな響きにじっと聞き入り、その豊かな音色に心洗われる一時となった。

シマタニ昇龍工房にて

金屋町では、まず、高岡市鋳物資料館を訪問。400 年にわたる鋳物産業の歴史、多種多様な造型・鋳造用具や初期の鋳造技術などについてお話を伺った。その後、観光ボランティアガイドの般若さんから、石畳通りや千本格子の町屋の造りなどの説明を聞きながら、大寺幸八郎商店を訪問し、店主の大寺雅子さん、康太さんの案内で、重厚な梁、吹き抜け、天窓の趣ある建物、茶室を望む日本庭園などを見学。高岡鋳物発祥の地である金屋町についてお話を伺い、国の重要伝統的建造物群保存地区である歴史的町並みの魅力を再認識した。

金屋町にて

昼食後、勝興寺へ移動し、公益財団法人勝興寺文化財保存・活用事業団の高田克宏専務理事から、23 年にも及ぶ大規模な保存修理、壮麗な伽藍が蘇った勝興寺の魅力についてお話を伺った。「平成の大修理」は本堂を半解体修理する第１期工事が 1998 年に始まり、2005 年からの第２期工事では、本坊、総門、唐門、式台門など 11 棟の修理が行われた。修理は江戸時代後期の姿に復原することを基本方針として実施され、2020 年度に完

工。各建造物の損傷具合に応じた修理内容の説明とともに、寺所蔵の重要文化財「洛中洛外図屏風」についても解説いただいた。

さらに、勝興寺で開催されていた「GO FOR KOGEI 2021」特別展を観覧。実行委員会主管の認定NPO法人趣都金澤の浦淳理事長らに解説いただきながら、文化財空間に呼応した創造的な展示作品を鑑賞した。

ものづくりのまち高岡で、伝統工芸と現代アート化する工芸、工芸的な美しさや工芸の新たな価値に触れ、知見を深める貴重な機会となった。

勝興寺本堂にて

GO FOR KOGEI 特別展にて

〇第３回委員会

令和４年１月 27 日（木）　参加者 13 名（於：ありそドーム）

はじめに、パラメダリストの藤井友里子選手を講師に招き、講演会を開催した。藤井選手は、「電動車椅子によって、できることが増え生活が変わった。日本代表に選ばれて世界が広がった」とボッチャとの出会いを振り返り、東京パラリンピックを目指し競技に専念する中、「経済面でのサポートがメダル獲得につながった」と企業支援に感謝した。そして、「多くの方にボッチャを体験してもらい、誰にでもできる気軽さと戦術の奥深さを感じてもらいたい」と講演を締めくくった。

藤井友里子選手

続いて、コートに移動し、３人ずつのチームに分かれて実際にボッチャ競技を体験。ボールが目標まで届かなかったり、強く投げすぎてしまったりと、思い通りにいかない投球の難しさに苦戦しながらも、藤井選手からアドバイスを受け、チームで作戦を練るなど白熱した試合を展開した。優れた投球には大きな拍手が出るなど、参加者は和気あいあいとした雰囲気の中でボッチャを楽しみ、パラスポーツの魅力を十分に体感した。

〇第４回委員会（拡大委員会）
令和４年２月 21 日（月）　参加者 75 名（オンライン）

内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長 髙科 淳氏が「2025 年大阪・関西万博の成功に向けて」と題して講演を行い、会員 75 名が Zoom 視聴した。

髙科氏はまず、大阪・関西万博の概要を説明。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、コンセプトである「未来社会の実験場」に基づき、カーボンニュートラル、デジタル技術、次世代モビリティなど、新たな技術やシステムを実証する場であり、SDGs 達成のプラットフォームでもあるとした。

また、各界のトップランナー８人が自ら創り上げるテーマ事業や、コンセプトの具体化に向けた未来社会ショーケース事業など、様々な企業が幅広く参加できるように、多様な参加の枠組みを計画していることを紹介した。

そして、大阪・関西にとどまらず日本全国で機運を醸成するために、「TEAM EXPO 2025」の共創チャレンジや「ジュニア EXPO」など参加型プログラムを実施し、多様な主体の参画を促進するとともに、東京オリパラのホストタウン交流や万博首長連合など、自治体とも協力しながら取り組んでいきたいと話した。

最後に、「1970 年大阪万博は、動く歩道や電気自動車、携帯電話など、50 年後の今も大きなレガシーとして残っている。2025 年大阪・関西万博も未来を共創するチャレンジであり、企業の皆さんにもいろいろな形で参加いただき、一緒に万博をつくっていきたい」と講演を締めくくった。

＜2022 年度＞
〇第５回委員会
令和４年５月 17 日（火）　参加者 15 名　（於：南砺市城端 他）

はじめに、株式会社松井機業を訪問し、城端絹織物の生産工程を見学した。

株式会社松井機業では、松井渉さんに、「城端絹」の成り立ちと伝統的な製造技術についてお話を伺った。絹本来の美しさを引き出す機織りの技術、自然由来の光沢を生かす精錬や染色、しけ絹と和紙を張り合わせる技術、桑の栽培、養蚕、糸繰りなどを解説いただきながら施設を視察した。絹織物の需要が時代とともに変化する中で、機の音は途絶えさせない想いが込められていることを感じるものであった。

その後、城端曳山会館を訪問。城端蒔絵 十六代　小原治五右衛門さんから300年にわたる、城端曳山祭の曳山の特徴や、先代から携わってきた修復作業などを解説いただきながら館内を視察した。伝統工芸は今にあり、これから常に独創的な展開をしていくことが求められていること、グローバルはローカルを極めることに繋がり、地域を大切にし、発信力で得られる成果を町に還元する重要性について解説いただいた。

篠笛に聴き入る参加者一同

昼食後、となみ野庄川荘にて、三遊亭亮楽師匠から、着物の所作や落語に対する思いについてお話を伺い、落語を傾聴した。着物により女性のしぐさを表現できることや、落語ではセンス・手ぬぐいを用いて様々な表現ができることに触れ、落語を聞いて、想像力を養うことの大事さについて解説をいただいた。軽妙な語り口を通して、落語の魅力に引き込まれる一時であった。

富山の伝統文化と歴史や魅力を学び、和の文化を体験し、富山の伝統文化と歴史の新たな価値に触れ、知見を深める貴重な機会となった。

〇第６回委員会

令和４年６月 17 日（金）　参加者 14 名　（於：室堂、称名滝）

昨年の第１回委員会で「癒しの立山曼荼羅の世界」と題し講演いただいた立山ガイドの佐伯知彦氏を講師に招き、立山信仰の続編として室堂を視察した。

はじめに、佐伯氏は、立山信仰の源である立山の地形、地質や気象と植物の分布に関する特徴を説明。

その後、「日本三霊山」の一つである立山について、室堂周辺を巡りながら、古来より崇められてきた立山信仰について解説いただいた。

昼食後、雨天のため、弥陀ヶ原視察を取り止め、称名滝に移動。佐伯氏から、悪城の壁は称名川の浸食により形成された希少な地形であり、称名滝の一帯は保護すべきラムサール条約登録湿地区域であると説明を受けた。

佐伯講師

室堂の火山岩と深成岩の並存を解説する佐伯講師

立山の魅力と立山信仰の壮大な世界を肌で体感する機会となった。参加者からは、単なる見学ではなく、佐伯氏のガイドにより、富山の自

然について知識を深め、雷鳥を至近距離で観察し、貴重な体験ができたという声が寄せられた。

地獄谷を見立てた立山地獄を望む

〇第７回委員会

令和４年９月 25 日(日)～26 日（月）　参加者 17 名

（於：糸魚川フォッサマグナミュージアム、黒部ダム、弥陀ヶ原など）

今年度の文化スポーツ委員会は立山の雄大な自然や立山観光の歴史を学ぶことを活動テーマにしており、第７回委員会では、糸魚川フォッサマグナミュージアム、黒部ダム、弥陀ヶ原などを視察した。

１日目はまず糸魚川フォッサマグナミュージアムを見学。同館は地球や日本列島の生い立ちを分かりやすく展示した石の博物館で竹之内耕館長にフォッサマグナについて解説いただいた。フォッサマグナは 1,600 万年前、日本列島がアジア大陸から離れる時にできた大地の裂け目であり、糸魚川－静岡構造線は、日本列島を東北日本と西南日本の真っ二つに分ける断層の西側の境界断層だと説明。また、1967 年に発刊された吉村昭の長編ノンフィクション小説「高熱隧道」を紹介し、欅平あたりのトンネルを掘削する際、熱い岩盤があったと記されているのは飛騨山脈直下に存在するマグマであると説明した。

竹之内耕館長

その後、宿泊先のホテル（ANA ホリデイ・インリゾート信濃大町くろよん）に移動し、元関西電力㈱黒部川電力システムセンター所長の米沢出穂氏に「世紀の大工事 クロヨン建設 その歴史」と題して講演いただいた。

講師　米澤　出穂　氏

米沢氏は黒部ダムの高さは 186mで日本一、戦後日本の電力不足を補うために昭和 31 年から７年の歳月と 513 億円の工費をかけ完成したアーチ式ダムであると説明。黒四ダムと通称されるのは、黒部川第四発電所という発電所の名前からきているとし、大町とダムサイトを結ぶトンネル工事には、延べ１千万人の人手がかかり、特に破

砕帯と呼ばれる湧水の湧き出し地帯は超難関工事で、80 メートルの距離を現場作業員が諦めず困難に立ち向かい、７か月かけて突破したと熱く語った。さらにクロヨン建設は 171 名の尊い犠牲により完成したことを忘れてはならないと解説した。

２日目は実際に黒部ダムを見学。殉職者慰霊碑に手を合わせ、立山連峰を背景に迫力ある観光放水と緑の水をたたえる黒部湖を見学。その雄大かつ壮大な景観を目の当たりにし、改めて工事作業員の苦労に思いを馳せた。その後、黒部湖発のケーブルカー、ロープウェイと乗り継ぎ大観峰に到着。展望台では 360 度の迫力ある大パノラマに感動。次に電気トロリーバスで室堂へ、さらにバスで弥陀ヶ原ホテルへ向かい昼食後、同ホテルの板澤正司副支配人のガイドで弥陀ヶ原周辺を散策した。弥陀ヶ原は日本国内では最も標高の高い所にあるラムサール条約に登録される湿地で、眼下に広がる広大湿地帯の眺望、青空と白い雲に雄々しく映える大日岳を拝んだ。

二日間にわたり天候に恵まれ、立山の雄大な自然と先人が命懸けで作った黒部ダムの歴史とスケールの大きさに感動した有意義な視察となった。

〇第８回委員会

令和４年 11 月 28 日（月）　参加者 40 名（於：オークスカナルパークホテル富山）

今回は日本の国技である相撲をテーマに委員会を開催。司会を武内孝憲副委員長が務め、ゲストとして朝乃山富山後援会理事長の青木 仁氏、富山商業高校相撲部監督の上田龍弘氏をお招きし、３人で「相撲談議」を行った。

上田監督には相撲の起源・歴史、地方巡業の目的、階級と一門、角界に入門するための新弟子検査、力士の引退後の人生設計（セカンドキャリア）など相撲全般についてわかりやすく解説いただいた。

青木理事長には朝乃山の経歴について語っていただいた。相撲は幼少のころからしていたが、富山商業高校で恩師浦山英樹先生に出会い、厳しい指導を受け強くなったこと、進学した近畿大学でも着実に実力をつけ、前高砂親方の元大関朝潮と浦山先生が近畿大学出身ということで高砂部屋に入門したこと、入門から大関までの活躍、新型コロナガイドライン違反による昨年７月から１年の出場停止（降格）から復活に至るま

での苦労話など詳しく説明いただいた。

最後に武内副委員長が、令和５年１月22日（大相撲初場所千秋楽）に「相撲観戦ツアー」を企画し、両国国技館で朝乃山を応援することを紹介し委員会を終えた。

〇第９回委員会

令和５年１月 22 日(日)～23 日(月)　参加者 45 名（於：東京）

第９回文化スポーツ委員会には委員とその家族ら45名が参加、初日22日は両国国技館で相撲観戦(富山県出身力士朝乃山応援)、翌23日は歌舞伎鑑賞と文字通り「文化」と「スポーツ」両面に触れる日程が組まれた。

ちゃんこ巴潟にて

初日は相撲観戦の前に「ちゃんこ巴潟」本店にて昼食。島田委員長が「待ちに待った朝乃山の相撲観戦、昨日すでに朝乃山は十両優勝を決めましたが、今日の千秋楽も必ず勝利するようみんなで一生懸命応援しましょう」と挨拶し乾杯。参加者は本場のちゃんこ鍋に舌鼓を打ち応援前の力を付けた。

その後、一行は十両の土俵入り前に両国国技館に入場した。千秋楽の朝乃山の取組は東十両２枚目の北青鵬((ほくせいほう)との対戦。朝乃山が土俵に上ると一際大きな歓声が湧きあがり、われわれも朝乃山の名前が入ったタオルを掲げ一生懸命応援した。朝乃山は立ち合い後すぐに得意の右四つの形をつくると、寄って土俵際まで追い詰め最後は上手投げという力強い相撲で北青鵬を破り、見事14勝１敗の堂々たる成績で今場所を終えた。表彰式で八角理事長から十両優勝の表彰状を受け取る朝乃山の勇姿に参加者一同大きな拍手を送った。

その後も幕内の取組を観戦したが、力士の威風堂々、迫力ある姿と白熱した取組を目の前で観戦し、テレビ観戦では得ることのできない臨場感を味わった。一行は最後の取組、大関貴景勝が前頭13枚目 琴勝峰を破り幕内優勝を果たしたところまで観戦し、両国国技館を後にした。

引き続き帝国ホテルで開催された高砂部屋祝賀会に参加。朝乃山は「この結果に満足はしていない。さらに上を目指して稽古に精進していくので、これからも応援よろしくお願いします」と挨拶。師匠の高砂親方(元関脇朝赤龍)は「見事に優勝することができた。15日間本当によく頑張った」と労った。会場には元横綱朝青龍のドルゴルスレン・タグワドルジ氏も訪れ、朝乃山を祝福した。

朝乃山挨拶

二日目は歌舞伎座(銀座)で初春をテーマにした歌舞伎（「卯春歌舞伎草紙」と「弁天娘女男白浪」）を鑑賞した。歌舞伎ならではの華やかな衣装、舞台に艶やかな音楽、舞、踊りを堪能した。

参加者からはとても良い企画だったと満足の声が聞かれ、日本の伝統文化･芸能に触れる有意義で充実した体験となった。

〇第 10 回委員会（教育問題委員会と合同開催）

令和５年３月 28 日(火)　参加者 45 名（於：富山大学）

銀メダルを手に講演する宮島氏

第10回委員会は、教育問題委員会と合同で、車いすバスケットボール東京パラリンピック銀メダリストの宮島徹也選手を招き、講演会と車いすバスケットボール体験交流会を開催した。

講演会では、宮島選手はまず自身の半生を振り返った。中学２年の時、バスケットボール県選抜チーム入りを決める選考会中に靭帯断裂の大けがを負い、手術を受けるも医療事故により左足を切断。障害者になった現実と将来の不安から人生に絶望していたが、障害者になった自分に変わらずに接してくれる友人や家族の存在から「このままではだめだ、何かしなきゃ」と思い、車いすバスケットボールを始めた。周囲の人々の支えのお蔭で「車いすバスケットボールで日本代表になる」という夢を見つけることができ、今の自分があると語った。

次に、「一心」をスローガンに掲げ、年齢も境遇も違う選手たちがチームとして１つになり銀メダルを獲得した東京パラリンピックの舞台裏を語った。

最後に「障害も見方によっては強みに変えられる。僕は、障害はあるがパラアスリート。アスリートとして見てもらえれば、皆さんと一緒にスポーツを通じて障害への理解を深めたり、富山県を盛り上げていく１つのきっかけになる」と講演を締めくくった。

体験交流会では、宮島選手から前進、バック、右回り・左回りといった車いすの操作やボールを持った動きの指導を受けた後、実際に試合を行った。

参加者たちは、車いすに乗ってのドリブル、パス、シュートの難しさに苦戦しながらも、白熱した試合を展開した。シュートが決まると大きな歓声を上げるなど、参加者は童心に帰って熱中した。パラスポーツの魅力を十分に体感できる貴重な機会となった。

３　同友会の日

＜2021年度＞

〇カターレ富山：令和３年 10 月 30 日（土）

カターレ富山対Y.S.C.C.横浜

参加者約100名（於：富山県総合運動公園陸上競技場）

カターレは、Ｊ２復帰に向け、ホームで確実に勝利し、再び勢いに乗りたいところ。必勝で臨んだ試合は開始から激しく競り合い、互いにチャンスを作りながらも決めきれない展開が続き、両チーム無得点で前半を折り返した。

互いに決定機がなく、一進一退の攻防が続く中、後半16分、カターレは球際で競り負けてカウンターから先制点を許してしまう。その後、１点を追いかけるカターレは選手を入れ替えて何度もゴールに迫るが、最後まで得点を奪えず、今シーズン初の連敗を喫した。

Ｊ２昇格争いが大詰めを迎える中、カターレの勝利を願い、同友会応援席からも熱い応援を送り続けたが、痛恨の連敗となり、３位から４位に順位を落とした。

今シーズンは残り５試合となり、負けられない試合が続くカターレ。悲願のＪ２復帰へ向けて、今後の勝利に期待したい。

〇富山グラウジーズ：令和４年３月 16 日（水）

富山グラウジーズ対京都ハンナリーズ

参加者約120名（於：富山市総合体育館）

試合前のオープニングセレモニーでは、島田委員長がアリーナ中央で挨拶し、「『同友会の日』は今年で10年目。地元プロスポーツの支援を通して富山の発展につなげ、そのエネルギーが富山の地域を盛り上げることを期待している。今日はこの応援席を赤と黒で染め上げ、精一杯応援したい」と熱く語った。

試合は、グラウジーズが序盤に一時11点をリードするも、その後は、攻撃にバリエーションを欠き、シュート精度も上がらず、第２クオーターで13点を連続で奪われて逆転を許すと、第３クオーターには18点を連続で失い、一気に突き放された。

主力２選手を欠き、苦境のチームを後押しするため、同友会応援席からも大きな拍手で盛り上げ、熱い応援を送り続けたが、流れを取り戻すことはできず、ホームで悔しい連敗を喫した。２年連続のチャンピオンシップ出場に向けて、今後の勝利に期待したい。

＜2022年度＞
〇富山 GRN サンダーバーズ：令和４年８月 28 日（日）
富山GRNサンダーバーズ対福井ネクサスエレファンツ
参加者約60名（於：県営富山野球場）

試合前には島田委員長の挨拶が行われ、富山経済同友会の「同友会の日」が11年目を迎えたことを紹介し、「両チームともに活気溢れる試合をお願いしたい。みんなで応援して地元プロスポーツを盛り上げていきましょう」と語った。
試合は２点を追う七回、安打と四球で１死一、二塁の好機をつくると、７番吉本光甫選手が２点二塁打で追いついた。３－３で引き分け、順位は４チーム中２位をキープした。

〇カターレ富山：令和４年 10 月 30 日（日）
カターレ富山対今治FC
参加者約90名（於：富山県総合運動公園陸上競技場）

カターレは、ホームで確実に勝利し、Ｊ２復帰の夢をつなぎたいところ。必勝で臨んだ試合は激しく競り合い、両チーム２対２の同点で前半を折り返し、後半リードしたいカターレだが、同31分に勝ち越し点を奪われ、その後、最後まで得点を奪い返すことができなかった。

Ｊ２昇格争いが大詰めを迎える中、カターレの勝利を願い、熱い応援を送り続けたが、痛恨の３連敗となり、５位から６位に順位を落とす結果となった。

今シーズンは残り３試合、悲願のＪ２復帰へ向けて、今後の勝利に期待したい。

〇富山グラウジーズ：令和５年１月 29 日（日）
富山グラウジーズ対秋田ノーザンハピネッツ
参加者約200名（於：富山市総合体育館）

試合前のオープニングセレモニーでは、山野昌道アドバイザーがアリーナ中央で挨拶し、「富山グラウジーズの成績は厳しい状況ですが、われわれブースターが一丸となってグラウジーズを盛り上げ、勝利に導こうではありませんか」と熱く語った。

試合は第１クオーター序盤から苦戦。激しくプレッシャーをかける秋田を前にミスが続き、立て続けに13失点した。追い掛ける展開でアクシデントが続出、第２クオーターでブライス・ジョンソン選手、第４クオーターで飴谷由毅選手がそれぞれ負傷退場した。試合を通じてガドソンが33得点と奮闘したが、序盤の差が最後まで響いた。

同友会応援席からは大きな拍手で盛り上げ、熱い応援を送り続けたが、流れを取り戻すことはできず、３連敗を喫してしまった。今後の勝利に期待したい。

４　会員定例会

＜2021 年度＞

〇令和３年７月会員定例会

令和３年７月15日（木）　参加者120名（オンライン含む）
（於：オークスカナルパークホテル富山）

講師：元ラグビー日本代表／東芝ブレイブルーパス普及担当　大野　均　氏
（東京からリモート講演）
演題：「弱小チームからワールドカップで勝つまで」

大野氏はまず、ラグビーの面白さやプレーの特徴などラグビーの魅力を説明した後、自身のラグビーとの出会いを紹介。大学の弱小チームで、先輩の熱烈な勧誘を受けてラグビーを始め、仲間のために体を張る、ラグビーの根底に必要なタフさを身につけたこと、そして、周りの支えによって社会人強豪チームでプレーするチャンスをつかむことができたことを語った。

続けて、初めてのW杯では独特の緊張感の中で勝利への欲が生まれ、２度目は勝利を逃した悔しさに雪辱を誓い、さらに、大義をなす覚悟を決め過酷なハードワークを乗り越えた結果、「世紀の番狂わせ」で世界に大きなインパクトを与えることができたと、日本代表として出場した３度のW杯を振り返った。

最後に、自分がなすべき役割を完璧にやり抜くことが「チームワーク」であり、誰かのために、感謝の気持ちで、本気になり、覚悟を持って取り組むことで、自身の成長につながり、人の心を強くつかむことができるとしたうえで、「ラグビーを通じて、困難に立ち向かう勇気を共感してほしい」と講演を締めくくった。

＜2022年度＞

〇令和４年７月会員定例会

令和４年７月27日（水）　参加者約120名
（於：ホテルグランテラス富山）

講師：ＮＳＧグループ会長／株式会社アルビレックス新潟 取締役会長　池田 弘 氏
演題：「スポーツを通じた地域活性化」

最初に池田氏は、スポーツによる地域活性化にはそれなりの資金が必要なことからNSGグループが中心となり地域全体で支える形をつくろうと考え、スポーツで活躍できる若者の因子を残すべく開志国際高校、新潟医療福祉大学を設立するに至った経緯を説明した。そして卒業生等ゆかりの選手が全国レベル、オリンピック等で活躍するなど成果をあげたこと、さらにアメリカンフットボールチーム、Xリーグ所属「ディアーズ」の経営権を取得し10年以内に胎内市へ完全移行する構想を発表したことに触れ、DX活用による収益拡大の実績について語った。

また、子どもの運動能力を心配する父兄が多いことから、子どもたちに色々な種目を体験させ、やりたいスポーツを見つけ出し継続させる仕組みづくりのため、オールアルビレックススポーツクラブを開設。さらに、スポーツ強化の高校、大学と連携し、首都圏に負けない魅力あるカリキュラムを構築し数々の実績をあげていると解説した。

スポーツを支えるためには、良い企業に大口ではなく、ご縁のある企業で薄く広く支える仕組みづくりが大事とし、そのことが日本国内トップレベルの地域活性化に繋がると強調した。そして、スポーツの効用として、アスリートの高い能力はビジネスに通用し、個性あるアスリートが色々な形で地域に残り、地域を支える仕組みが重要と説いた。そして、そうした人たちの雇用こそが地域活性化に繋がると講演を締めくくった。

５　アスリート支援小委員会

昨今の委員会数の削減に伴い、一部の委員会では委員の数が多くなり、発言の場が少なくなったとの意見がでていた。また、令和４年５月10日の委員長会議において、来年度の委員会再編も考慮し、各委員会で委員会内に小委員会設置を検討することを決定。それを受けて、文化スポーツ委員会には、「アスリート支援小委員会（委員長は尾城敬郎氏）」を設立した。委員の募集は委員会内で行った。

○第１回小委員会

令和４年８月31日（水）参加者24名（於：インテックビル２階会議室）

冒頭、島田文化スポーツ委員長と尾城アスリート支援小委員長が挨拶、その後、島田委員長が小委員会設立の経緯について説明した。

その後、尾城委員長より2022年度の活動内容と今後の進め方について説明があった。尾城委員長は今後、委員を「実装チーム」と「座学チーム」に分け、「実装チーム」は受け皿探し、「座学チーム」は委員ならびに会員企業の取組みを共有する活動をしていくことを説明した。

続いて、日本電気㈱北陸支社 北陸官公営業グループ プロフェショナル 吉村尚人氏（元NECグリーンロケッツ所属）が「元ラグビートップリーグ選手のセカンドキャリア体験談」と題し講演。スポーツ選手は①目標設定と行動計画の手法を体得している、②競技中コンマ何秒での意思疎通が必要であり、コミュニケーション能力は高い、③目標に対し、「誰が」、「いつまで」、「何をするのか」の判断能力が備わっており、企業が求める人材に合致していることを吉村氏は強調した。講演後、活発な質疑応答がなされた。

○第２回小委員会

令和４年11月29日（火）参加者７名（於：事務局会議室）

第２回小委員会では、「公立中学校における部活動の地域移行」について富山市 市民生活部 スポーツ健康課との意見交換を行った。

はじめに尾城委員長から挨拶があり、部活動の地域移行に、現役を引退するアスリートがかかわれないか模索していきいと意気込みを語った。

その後は、スポーツ健康課から現状のヒアリングを実施。部活動と地域クラブが混在し

ていることによる難しさや、民間企業からの支援（指導者輩出）に際しては相応のインセンティブが必要になること、特殊競技等の指導者確保の難しさなど課題感の共有がなされた。

また、人材会社を設立する、退職後に指導継続を志望する教員を活用するといったアイデアが挙がるなど、活発な意見交換が行われた。

当委員会は引き続き、部活動の地域移行とアスリート支援活動との連携を検討していく方針であり、関係各所との情報交換を進めることとしている。

文化スポーツ委員会：写真集（2021 年 7 月～2023 年 3 月 28 日）

○担当委員

委員長　　：　島田好美

副委員長　　：　浅野雅史、尾城敬郎、神崎直志、高瀬幸忠、武内孝憲、長谷佳子、柳川三千代

アドバイザー：　大橋聡司、高林幸裕、羽根由、石坂兼人、津島春秋、山野昌道

○2021 年度

会員定例会　元ラグビー日本代表大野均氏　講演会　7 月 15 日（木）

第１回委員会「癒しの立山曼荼羅の世界」7 月 30 日（金）佐伯友彦氏　講演（立山博物館）

立山ガイド 佐伯 知彦

第２回委員会　工芸の魅力、高岡・勝興寺　10 月 19 日（火）

シマタニ昇龍工房（見学）／モメンタムファクトリー・Ｏｒｉｉ

昼食（日本料理 丸尚）

勝興寺にて　　GO FOR KOGEI　の視察

第 3 回委員会　ボッチャ体験　2022 年 1 月 27 日（木）　藤井友里子選手と

〇2022 年度

第 4 回委員会（拡大委員会）　大阪・関西博事務局次長　高科淳氏講演　2 月 21 日（木）

オンライン開催のため、写真はありません。

第５回委員会　～富山で和の文化を体験～　５月 17 日（火）

南砺市城端にて、城端織（松井機業）

曳山会館にて、城端蒔絵（十六代　小原小治五右衛門氏）

三遊亭良楽師匠の一席

第 6 回委員会　弥陀ヶ原・称名滝視察　6 月 17 日（金）

室堂にて

同じ日の写真です。　室堂（上）　　称名滝（下）

称名滝にて　５段目の滝を確認

会員定例会　アルビレックス新潟会長　池田弘氏講演　7 月 27 日（水）

第７回委員会　黒部ダム視察　９月 25・26 日（日・月）

フォッサマグナミュージアム

「黒部ダム建設の歴史」米沢出穂氏　講演

扇沢↔黒部ダム
2022年 9月 26日

迫力ある黒部ダムにて

弥陀ヶ原散策

第 8 回委員会　相撲談議　11 月 28 日（月）

富山商業高校相撲部　上田監督
朝乃山富山後援会　青木理事長

第９回委員会　相撲観戦　両国国技館、歌舞伎座　令和５年１月 25・26 日（日・月）

昼食はちゃんこ鍋「巴潟」にて

朝乃山　千秋楽に 13 勝２敗で十両優勝

「朝乃山タオル」で応援

朝乃山

朝乃山
朝乃山

朝乃山
朝乃山

朝乃山
朝乃山

朝乃山
朝乃山

朝乃山
朝乃山

朝乃山
朝乃山

銀座　歌舞伎座にて

歌舞伎

歌舞伎座新開場十周年
歌舞伎座
チケットホン松竹
0570-000-489
03-6745-0888
チケットWeb松竹
歌舞伎絵画
劇場内 歌舞伎座 でもお求めいただけます。

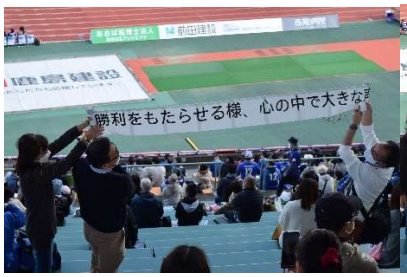
第 10 回委員会　車いすバスケット体験会　3 月 28 日（火）宮島徹也選手と

「同友会の日」

・令和４年３月 16 日（水）富山グラウジーズ応援　対　京都ハンナリーズ

・８月 28 日（日）富山 GRN サンダーバーズ応援　対　福井ネクサスエレファンツ

・10 月 30 日（日）カターレ富山応援　対　今治 FC



・令和５年１月 29 日（日）富山グラウジーズ応援　対　秋田ノーザンハピネッツ

アスリート支援小委員会　尾城敬郎委員長

第１回委員会　　８月 31 日（水）

第２回委員会　11 月 29 日（火）

２年間、多くの思い出を頂きました。
有難うございました。

2023 年４月　　島田好美

文化スポーツ委員会　委員名簿（2023 年３月現在）

136 名

委員会役職	氏名	会社名	役職
委員長	島田　好美	㈱島田商店	代表取締役
副委員長	浅野　雅史	㈱バロン	代表取締役
副委員長	尾城　敬郎	三菱商事㈱	北陸支店長
副委員長	神崎　直志	三井物産㈱	理事北陸支社長
副委員長	高瀬　幸忠	㈱スカイインテック	取締役社長
副委員長	武内　孝憲	㈱牛島屋	代表取締役
副委員長	長谷　佳子	㈲小杉スポーツ	代表取締役
副委員長	柳川　三千代	㈱モーヴ	代表取締役
アドバイザー	津嶋　春秋	㈱アーキジオ	取締役会長
アドバイザー	石坂　兼人	石坂建設㈱	取締役社長
アドバイザー	山野　昌道	㈱チューリップテレビ	取締役社長
	四十物　直之	㈱四十物昆布	取締役会長
	青山　毅	㈱電通西日本	富山支社長
	浅野　慎一	ＹＫＫ㈱	副社長 黒部事業所長
	荒井　進	ジェイアールエム㈱	参与
	飯倉　清博	㈱やぶうち商会	取締役社長
	飯野　高騎	㈱かんぽ生命保険	富山支店長
	五十嵐　一雄	三機工業㈱	執行役員北陸支店長
	石倉　央	㈱FP 不動産センター	代表取締役
	伊勢　徹	㈱ライフサービス	代表取締役
	五十川　規洋	三井住友海上火災保険㈱	富山支店長
	板谷　聡	板谷経営工房㈲	取締役社長
	市森　友明	㈱新日本コンサルタント	取締役社長
	伊東　潤一郎	アイティオ㈱	取締役社長
	稲田　祐治	加越能バス㈱	相談役
	井上　敏夫	井上機材㈱	代表取締役
	井元　謙治	㈱日産サティオ富山	取締役社長
	今井　壽子	㈲ゼフィール	相談役
	上田　信和	砺波工業㈱	取締役社長
	上野　等	北陸電力㈱	執行役員富山支店長
	碓井　順	明治安田生命保険（相）	富山支社長
	浦山　哲郎	（学）浦山学園	理事長
	遠藤　忠洋	富山交易㈱	取締役社長
	大谷　治郎	マンテンホテル㈱	取締役社長
	大西　英一	丸紅㈱	北陸支店長
	大野　賢治	菱機工業㈱	執行役員富山支店長
	岡部　竜一	㈱岡部	代表取締役
	岡本　肇	㈲岡本研工業	代表取締役

	奥野　博之	オークス㈱	取締役会長
	桶屋　泰三	桶屋税理士事務所	所長
	押川　実恵	北陸ミート㈱	代表取締役
	小竹　秀子	オダケホーム㈱	取締役社長
	葛城　豪	日本放送協会富山放送局	局長
	金尾　雅行	富山港湾運送㈱	代表取締役
	川合　紀子	㈲ステップアップ	代表取締役
	岸　洋一郎	大塚製薬㈱	富山出張所 所長
	北澤　真一	㈱IHI	北陸支社長
	北村　彰人	ＪＦＥエンジニアリング㈱	富山支店長
	木下　実	木下法律事務所	弁護士
	久郷　慎治	㈱久郷一樹園	代表取締役
	久保　貴義	積水ハウス㈱	北陸支店長
	倉田　聡史	大和証券㈱	富山支店長
	下条　良子	シンコー運輸倉庫㈲	代表取締役
	高野　治	㈱リョーシン	取締役社長
	小柴　順子	㈱コージン	会長
	伍嶋 二美男	（公財）富山県新世紀産業機構	理事長
	小杉　康夫	若鶴酒造㈱	代表取締役
	後藤　尚彦	富山新聞社	副代表
	小林　直行	東京海上日動火災保険㈱	富山支店長
	小脇　保志	みずほ信託銀行㈱	富山支店長
	酒井　基成	富士商事㈱	代表取締役
	櫻井　隆	協和ファーマケミカル㈱	取締役社長
	佐藤　幸博	㈱柿里	取締役社長
	塩井　仁司	㈲道正昆布	代表取締役
	嶋　龍仁	㈲ジェイシーバール	取締役社長
	下川　雅一	富山空港ターミナルビル㈱	取締役専務
	白倉　三喜	富山日産自動車㈱	取締役会長兼社長
	新名　宏次	㈱チューリップテレビ	専務取締役
	杉木　智一	立山製紙㈱	代表取締役
	関戸　正浩	住友生命保険（相）	富山支社長
	相馬　淳一	JVS㈱	代表取締役
	曽根　豊	㈱富冷	代表取締役
	高田　一徳	寿電設㈱	代表取締役
	高田　順一	阪神化成工業㈱	取締役会長
	髙田　千明	髙田食糧㈱	取締役社長
	高田　浩	バイホロン㈱	代表取締役
	髙橋　朋浩	三井住友信託銀行㈱	富山支店長
	高林　幸裕	北電産業㈱	取締役社長
	髙松　重信	みずほ証券㈱	富山支店長

	橘　義継	㈲真栄工芸	代表取締役
	田中　英敬	日本銀行富山事務所	事務所長
	中条　充康	（学）北日本自動車学校	理事長
	塚田　達也	㈱神戸製鋼所	北陸支店長
	塚本　太輔	日電産業㈱	取締役社長
	辻井　益雄	㈱富花	取締役会長
	寺崎　敏治	富山製紙㈱	取締役社長
	東澤　善樹	とうざわ印刷工芸㈱	取締役社長
	戸口　正幸	新菱冷熱工業㈱	北陸支社長
	栃谷　義隆	㈱ヤングドライ	代表取締役
	永井　秀宗	寿板硝子㈱	代表取締役
	中沖　雄	㈱富山銀行	取締役頭取
	中川　雅弘	㈱KEC	代表取締役
	中川　優子	医療法人社団功連会南富山中川病院	理事長
	中﨑　俊也	㈱大和富山店	取締役店長
	長崎　衛	富山糧穀㈱	代表取締役
	永田　義邦	（一財）北陸予防医学協会	理事長
	中村　厚	日本クレアスコンサルティング㈱	代表取締役
	成伯　武	㈱ナリキ	取締役会長
	西野　晴仁	㈱福見建築設計事務所	代表取締役
	野村　充	㈱富山第一銀行	取締役頭取
	橋本　淳	サクラパックス㈱	代表取締役
	花方　寛人	㈱ハナガタ	常務取締役
	羽馬　隆人	YKK AP㈱	北陸支社長
	林　良孝	㈱日本旅行TiS富山支店	支店長
	東山　真也	西日本電信電話㈱	富山支店長
	左伴　繁雄	㈱カターレ富山	取締役社長
	平田　一彌	平田印刷㈱	取締役社長
	平田　純一	日本海ガス絆ホールディングス㈱	取締役副社長
	廣田　健一郎	廣田司法書士・土地家屋調査士事務所	代表
	廣田　大輔	十全化学㈱	取締役社長
	福島　鉄雄	㈱エフテック	取締役社長
	福田　可也	㈱クレハロ	取締役会長
	藤井　義晴	日本安全産業㈱	取締役社長
	藤﨑　嘉一	三谷商事㈱北陸支社	富山支店長
	牧田　和樹	㈱牧田組	取締役社長
	増山　一雄	増山電業㈱	代表取締役
	松嶋　重信	㈱司ファシリティーズ	専務取締役
	松田　光司	北陸電力㈱	取締役社長
	宮本　一成	全日本空輸㈱	富山支店長
	村尾　于尹	㈱村尾地研	取締役会長

	山岡　昭一	三菱重工業㈱	北陸支社長
	山岸　達	㈱ドコモＣＳ北陸	富山支店長
	山崎　良人	㈱JTB	富山支店長
	山田　彰弘	日本海コンクリート工業㈱	取締役社長
	山田　秀夫	㈱山田写真製版所	代表取締役
	山田　仁史	日本海建興㈱	取締役社長
	山村　隆彦	㈱日立製作所	北陸支社長
	山本　毅	山本毅法律事務所	代表者
	遊道　義則	㈱ユニオンランチ	取締役社長
	吉田　直樹	日本海ガス㈱	取締役
	吉田　登	北登精機㈱	代表取締役
	米田　祐康	金剛薬品㈱	取締役会長
	林　広麗	㈱林インターナショナル	代表取締役
	若林　健嗣	日本海電業㈱	代表取締役
	渡邉　琢磨	㈱宇奈月延対寺荘	取締役
	綿谷　雅代	ワタヤ自動車㈱	会長

富山経済同友会　〒930-0856　富山市牛島新町5-5　インテックビル4階
tel. (076) 444-0660 / fax. (076) 444-0661
ホームページ　https://www.doyukai.org